

抄録

タイトル：腰部脊柱管狭窄症術後の疼痛改善を目指した AKA-博田法の適用：仙腸関節機能障害を伴う 3 症例の報告

【目的】腰部脊柱管狭窄症に対し、外科的治療と保存的アプローチのどちらが優れているかを結論付ける信頼性は乏しく、手術後も、腰痛や下肢痛に悩まされ、日常生活に支障をきたしている現状がある。仙腸関節の機能低下は腰殿部痛や下肢痛・しびれを呈するため、腰部脊柱管狭窄症との鑑別を要する。しかし、仙腸関節に対する適切な診断、治療が行われていないため、症状が改善されない患者が少なくない。腰部脊柱管狭窄症術後であり、手術後も同様の症状に悩まされ、医師が仙腸関節機能障害と診断し、AKA-博田法を処方された 3 症例について報告する。

【方法】対象は、腰部脊柱管狭窄症の手術後 3 年以内で、全員が腰痛、下肢痛を主訴としており、手術では改善が見られなかった患者 3 名とした。徒手療法である AKA-博田法を施行し、仙腸関節の関節機能障害を改善する方法で、症状の改善を試みた。各患者に、月に 2 回（2 週間の間隔）の頻度で、6 カ月間 AKA-博田法を施行した。

【倫理的配慮】参加者の権利保護やリスクについて、インフォームドコンセントを行い、書面にて確認した。

【結果】すべての患者において、6 カ月以内に疼痛の軽減が確認され、日常生活動作の改善が見られた。施行前に比べ NRS スコアが 78. 2%減少した。

【考察】本研究は症例数が限られるが、AKA-博田法が腰部脊柱管狭窄症術後患者の疼痛緩和に効果的であり、腰部脊柱管狭窄症と仙腸関節が原因である疼痛とを鑑別する方法である可能性を示した。今後、さらなる大規模な研究により、確固たるエビデンスを提供していく必要がある。